

ある町の天気相談所

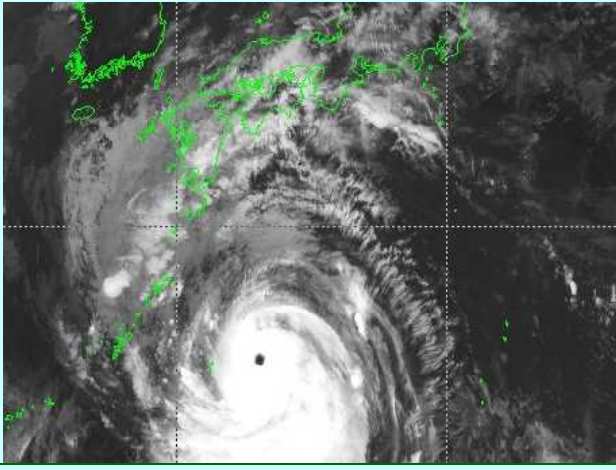
Vol.58
2022.10.7

令和4年10月号



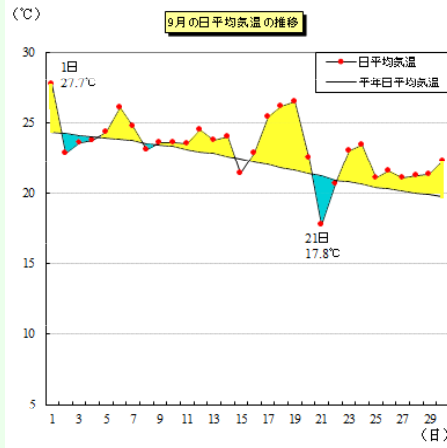
二つの台風

令和4年9月は台風第14号と15号の二つの台風が本州に接近したり、上陸したりしました。左の写真は、9月17日の最発達頃の台風第14号の気象衛星画像



9月の気候

9月は大陸からの高気圧に覆われることが多く、北に偏っていたため、湿った空気も入り大気も不安定な時がありました。月平均気温は23・2℃と平年より高く、台風に刺激された前線などの影響で、降水量は191ミリと月ごとの降水量では今年初めて平年より多くなりました。月合計の日照時間も146・9時間と平年より多くなりました。



10月予報 (気象庁発表)

10月ははじめ雨の日も多いですが、数日の周期で天気が変わるようになり、前半を中心に、暖かい空気に覆われやすい予想です。月平均気温は、「高い」、降水量、日照時間も、「ほぼ平年並み」の見込みです。

二つの台風2

台風第14号
9月14日3時に小笠原近海で発生、西に進む。当初はあまり発達しませんでした。16日に急発達、中心気圧は17日には910ヘクトパスカルまで下がり、猛烈な台風となりました。鹿児島県に上陸後、九州を縦断し、中国地方から日本海に出て、新潟県付近から再度上陸し宮城県沖に抜けて20日9時に温帯低気圧に変わりました。

鹿児島県に台風が上陸するときの中心付近気圧は、935ヘクトパスカルと、歴代4番目に低い(速報値)台風となり、台風に伴う特別警報が鹿児島県に発表されたほか、宮崎県でも雨が多く、大雨の特別警報が発表されました。

台風第15号

9月22日3時に日本の南で発生、北に進みました。台風としては発達せず、23日に東海道沖まで進み、東に進路を変え、24日9時に東海道沖で温帯低気圧に変わりました。

台風の北には寒気が入ってきており、台風接近時の23日には愛知県から静岡県付近に前線も停滞していたため、台風がもたらした暖かく湿った空気で大気が不安定となり、大雨となりました。

天気用語の基礎知識

指定河川洪水予報4

「氾濫危険情報」とは、氾濫危険水位を超えるか、超えると予測される際に発表される。警戒レベル4に該当し、自治体が避難指示を発表する目安で、河川付近からは避難した方がよい。「久慈川氾濫危険情報」の場合、榊橋水位観測所の水位が氾濫危険水位(6・7m)を超えるか、超えると予測される際に発表される。(水位は令和4年10月6日現在の値)

神峰の山から

今年度は平年より降水量が少ない月が多くなっていました。9月は台風や前線の影響により、平年を少し超える降水量がありました。(それでも今年に入ってから合計ではまだ平年の75%しかありません)。

平年を少し超えただけですが、雨の降り方が13日から24日までの10日間に偏っていたため、地盤が緩んでいる恐れがあり、大雨警報が発表されるなど、この期間はとても忙しくなりました。雨もある程度は降ってくれないと困りますが、まとまって降らずに、分散して降ってほしいと切に思いました。

日立では大きな被害が出るような現象はなくよかったです。